平成 22 年 7 月 14 日

病 害 虫 情 報　No. 2

茨城県病害虫防除所

圃場を良く観察し，いもち病の発生状況に応じた防除を行ってください！

［現在の状況］

① ７月上旬現在，葉いもちの発病度及び発生地点率は県南・県西地域で平年よりやや高い（表1）。県北・県央・鹿行地域は平年並～低いが，葉色が濃い水田や置苗のある水田において，多発している圃場が見られる。

② ７月上旬におけるいもち病の感染好適日（BLASTAM※による）の出現日数は，平年よりやや多い。

※　BLASTAM：アメダスデータを利用した葉いもちの発生予測プログラム

表1　葉いもちの発生状況（7月上旬調査）

地域		発生地点率(%)		発病度[1]	
（調査地点数）		本年	平年	本年	平年
県北	(9)	11	61	0.1	7.0
県央	(18)	61	69	4.0	8.9
鹿行	(6)	17	37	2.5	2.2
県南	(19)	63	30	4.1	2.1
県西	(12)	42	16	1.3	1.2
全県	(64)	47	44	2.8	4.7
県予察圃[2]	標肥区	－	－	2.5	3.3
	多肥区	－	－	3.0	9.3

1) 発病度：1圃場当たり25株について株ごとに下記の基準により発病程度を調査し，次式によって算出した値
発病度＝((4×A＋3×B＋2×C＋D)/(4×調査株数))×100
A：下葉は枯死し，ずり込み症状を呈する株数，　B：かなり病斑が見られ，軽いずり込み症状を呈する株数，
C：病斑がかなり見られる株数，　D：病斑がわずかに見られる株数
（参考：25株中10株で病斑がわずかに見られる場合･･･発病度10）

2) 県予察圃：農業総合センター農業研究所（水戸市上国井町）

［防除対策］

① 今後の天候の推移や圃場の環境条件によって，いもち病の発生状況は大きく変化するため，引き続き圃場を良く観察する。いもち病菌がイネの穂に侵入しやすいのは，出穂直後から出穂14日後位までである。この期間に降雨が続く場合は，発生に注意が必要である。

② 窒素過多はいもち病の発生を助長するため，穂肥は適正に実施する。

③ 葉いもちの発生が多い水田では，穂いもちの発生を助長するので防除が必要である。上位葉に発病が進展している圃場では防除を徹底する。穂いもちを対象とした薬剤防除の適期は，穂ばらみ末期～穂揃期である。表2を参考に，発生状況に応じた防除を行う。

④ 防除薬剤は表3を参考にする。粒剤を使用する場合には，出穂前に施用し，止水期間後は適正な水管理を行う。

表2　穂いもち防除の例

葉いもちの発生状況	出穂後の想定される天気	穂いもち被害危険度の目安	防除対策
無～少 発生は認められないか，下葉にわずかに認められる程度	晴天	ごく低い	防除の必要なし
	降雨	低い	降雨が続きそうな場合は，穂ばらみ末期～穂揃期に乳，液剤を散布，または出穂一週間前までに粒剤を施用
中 下葉に多く病斑があるが，上位葉にはほとんど認められない	晴天	中	穂ばらみ末期～穂揃期に乳，液剤を散布，または出穂一週間前までに粒剤を施用
	降雨	やや高い～高い	穂ばらみ末期～穂揃期に乳，液剤を散布，または出穂一週間前までに粒剤を施用
多 下葉に多くの病斑があり，上位葉にも進展している	晴天	やや高い～高い	穂ばらみ末期～穂揃期に乳，液剤を散布，または出穂一週間前までに粒剤を施用
	降雨	非常に高い (2回防除)	第1回目 穂ばらみ末期に乳，液剤を散布，または出穂一週間前までに粒剤を施用 第2回目 穂揃期に乳，液剤を散布

表３　イネいもち病に登録のある主な薬剤（平成 22 年 7 月 7 日現在）

薬剤名	希釈倍数または使用量	収穫前日数または使用時期	本剤の使用回数	有効成分－有効成分の総使用回数
1.葉いもち及び穂いもち				
オリブライト 250G	250g/10a	収穫 45 日前まで	1	ﾒﾄﾐﾉｽﾄﾛﾋﾞﾝ-1
アミスターエイト	1,000～1,500 倍	収穫 14 日前まで	3	ｱｿﾞｷｼｽﾄﾛﾋﾞﾝ-4 (育苗箱1,本田3)
ノンブラスフロアブル	1,000 倍	収穫 21 日前まで	2	ﾄﾘｼｸﾗｿﾞｰﾙ-4 (育苗箱1,本田3), ﾌｪﾘﾑｿﾞﾝ-2
ブラシンフロアブル	1,000 倍	収穫 21 日前まで	2	ﾌｻﾗｲﾄﾞ-6 (穂ばらみ期以降4), ﾌｪﾘﾑｿﾞﾝ-2
2.穂いもち				
アチーブ粒剤7	3～4kg/10a	出穂 30～5 日前 (収穫 21 日前まで)	3	ﾌｪﾉｷｻﾆﾙ-3
キタジンP粒剤	3～5kg/10a	出穂 20～7 日前	2	IBP-3(粒剤2)
コラトップ粒剤5	3～4kg/10a	出穂 30～5 日前	2	ﾋﾟﾛｷﾛﾝ-3(育苗箱1,本田2)
コラトップジャンボ	小包装 10～13 個 (500～650g) /10a	出穂 30～5 日前	2	ﾋﾟﾛｷﾛﾝ-3(育苗箱1,本田2)
フジワン粒剤	3～5kg/10a	出穂 30～10 日前 (収穫 30 日前まで)	1	ｲｿﾌﾟﾛﾁｵﾗﾝ-2(床土及び育苗箱合計1,本田1)

注 1）農薬を使用する際は，農薬ラベルに記載の使用方法・注意事項等を確認のうえ，周辺作物への飛散に留意して使用して下さい。

注 2）育苗箱施薬，有人ヘリ防除または無人ヘリ防除を行っている場合は，本剤の使用回数ならびに有効成分の総使用回数に十分注意して下さい。

注 3）水田において農薬を使用するときは，農薬のラベルに記載されている止水に関する注意事項を確認するとともに，止水期間は一週間程度として下さい。